

流行性耳下腺炎とRSウイルス感染症に注意しましょう



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 1	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 106	56	ヘルパンギーナ	↗ 39	26
咽頭結膜熱	↗ 24	6	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 117	104
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 45	32	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 320	251	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 27	9
水痘	↘ 15	23	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 88	46	無菌性髄膜炎	↘ 2	4
伝染性紅斑(りんご病)	→ 2	2	マイコプラズマ肺炎	↗ 11	8
突発性発疹	↗ 41	37	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎
- RSウイルス感染症

大きな流行が発生又は継続しつつある地域  
流行性耳下腺炎：八代

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	0	39	8	25	69	5	32	0	12	0	8	17	0	14	0	2	6	0	0
2 山鹿保健所	0	0	0	0	16	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	1	23	12	2	80	3	17	1	5	0	4	25	0	3	0	0	1	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	0	0	1	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	8	0	0	21	0	4	0	3	0	1	42	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	0	0	2	1	0	0	0	5	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
8 人吉保健所	0	6	0	0	12	3	0	0	3	0	1	10	0	0	0	0	1	0	0
9 有明保健所	0	10	1	3	50	0	15	1	6	0	7	9	0	9	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	0	3	2	6	20	0	10	0	3	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	17	1	4	19	4	8	0	3	0	17	2	0	1	0	0	0	0	0
計	1	106	24	45	320	15	88	2	41	0	39	117	0	27	0	2	11	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5 月	6-11 月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
小児科定点年齢区分	合計	0-5 月	6-11 月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	106	18	17	46	18	4	1	0	0	1	0	0	0	0	1							
咽頭結膜熱	24	0	0	10	5	2	3	3	0	1	0	0	0	0	0							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	0	0	0	3	3	9	5	2	5	3	3	7	0	5							
感染性胃腸炎	320	4	24	40	32	32	33	20	18	12	14	11	46	7	27							
水痘	15	0	1	2	3	2	2	3	1	0	0	0	1	0	0							
手足口病	88	2	19	36	17	8	4	0	0	1	0	1	0	0	0							
伝染性紅斑	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
突発性発疹	41	0	14	26	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
ヘルパンギーナ	39	1	12	12	2	5	2	1	2	1	1	0	0	0	0							
流行性耳下腺炎	117	0	1	8	11	12	25	26	17	5	8	1	2	0	1							
眼科定点年齢区分	合計	0-5 月	6-11 月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	27	0	1	2	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	4	6	4	1	1	1	2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0					
マイコプラズマ肺炎	11	0	5	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

引き続き、流行性耳下腺炎に注意しましょう

今週の流行性耳下腺炎の報告数は117件、依然として今年は報告数が多い状態が続いています。警報レベルが続いている八代地域では、今週の報告数は増加しており、14週連続で警報レベルです。なお、山鹿地域は先週まで警報レベルでしたが、今週警報解除となりました。

RSウイルス感染症に注意しましょう

今週のRSウイルス感染症の報告数は106件で、先週に比べ増加しました。例年、秋から冬にかけて報告数が増加する傾向にあります。RSウイルス感染症は、乳児が感染する感染症で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにすべての小児が感染するといわれています。特に、生後6か月以内の乳児がRSウイルスに初めてかかった場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を起こすことがありますので、生後6か月以内の乳幼児は、感染しないように注意しましょう。

症状は、鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1~2週間で軽快するといわれています。飛沫・接触感染が主な感染経路で、予防策は、流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない、症状のある家族はマスクをする、外出後の手洗いをきちんと行う、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する等です。

